

## 奈良市次期総合計画策定基礎調査

## 「市民アンケート」「中学生アンケート」結果について

## 1. “わがまち”への愛着と定住意向（市内に住み続けたい）について

◆ 市民の約7割が「住んでよかった」と感じている。また、約7割が奈良市への定住意向を示している。

- ・ 市民アンケートから、市民の約7割が「住んでよかった」と感じ、奈良市に「愛着」を感じている。また、奈良市への定住意向を示している。
- ・ 市民アンケートから、奈良市への定住意向を年代別に見ると、20歳代が一番低く年代が上がるほど高くなる。また、定住促進のために必要な施策は、「仕事と子育ての両立のための環境づくりや子育て支援の充実」が41.1%で最も多く、「保健・医療体制の充実」(33.7%)、「地場産業や新たな産業振興による雇用の受け皿づくりや起業支援」(24.5%)が続いている。
- ・ 10歳代については、市民アンケートでは母数が少ないため他の年代と傾向を比較することはできないが、中学生アンケートの結果から、中学生の約7割が奈良市への定住意向を示している。
- ・ 中学生アンケートでは「奈良が好き」の評価と定住意向の関係性は強く、評価が不鮮明な人は意向も不鮮明となる傾向がある。このことから、20～30歳代の市外転出を抑制するためにも、10歳代を対象とした“わがまち”への愛着を高める取り組みを今以上に行うことも必要。

## 2. “奈良市の将来都市像”及び“将来像実現のための重点施策”について

- ◆ 奈良市の都市像は「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」
  - ◆ 重点施策は「文化財や歴史的資源を保護・保全する」
- 
- ・ 市民アンケート、中学生アンケートとも、奈良市の将来都市像は「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」が一番多く、次に「交通事故・犯罪・公害・災害のない安全・安心な都市」が続く。18歳以上が抱く将来都市像と中学生が抱く将来都市像に大きな違いはない。
  - ・ 将来像実現のために重点を置くべき施策について、市民アンケートから、18歳以上は、「文化財や歴史的資源を保護・保全」「保健・医療体制の充実」「高齢者・障がい者福祉の充実」が多い。一方、中学生アンケートから、中学生は自然環境への取り組みの関心が高い反面、健康・医療や福祉への関心が低い。

### 3. 奈良市の良いところ（好きのところ）・悪いところ（嫌いのところ）について

#### ◆ 「住んでよかった」理由のトップは自然環境の良さ。「住んでよかったと思わない」理由のトップは交通の不便さ

- ・ 市民アンケートでは、「住んでよかった」理由は「自然環境が良い」が68.0%で最も多く、「古社寺・史跡・名勝が多く歴史がある」（46.2%）、「災害が少ない」（43.8%）が続いている。
- ・ 中学生アンケートにおいても同様の結果が出ている。「あなたが住んでいる『まち(近所)』の好きのところはどこですか」に対し「古社寺・史跡・名勝が多く歴史がある」が35.4%で最も多く、「自然環境が良い」（32.0%）、「災害が少ない」（31.4%）と続いている。
- ・ 市民アンケートでは、「住んでよかったと思わない」理由は「交通が不便」が67.0%で最も多く、「社会福祉や保健・医療体制が整っていない」（43.6%）、「買い物に不便」（39.4%）が続いている。
- ・ 中学生アンケートにおいて「あなたが住んでいる『まち(近所)』の嫌いところはどこですか」に対し、「特にない」が26.8%で最も多く、「買い物に不便」（26.8%）、「交通が不便」（23.8%）と続き、利便性についての不満が大きい傾向が見られる。

4. 施策の満足度・重要度の相対分析について

市民アンケートにおいて、市の施策の満足度と重要度の設問を設けて得られた結果をもとに、各施策間の相対関係を示すと次のとおり。相対的に重要度が高いが満足度が低い施策、つまり市民ニーズが高い施策としては「医療」「高齢者福祉」「子育て支援」「環境美化」「青少年育成」「障害者福祉」「地域福祉」「生活・環境衛生」「幼児教育」「開かれた市政」「交通対策」「交通安全」があげられている。

図表 施策の重要度・満足度の偏差値分布図

